

# MobileWriter機能解説書

---



# 目次

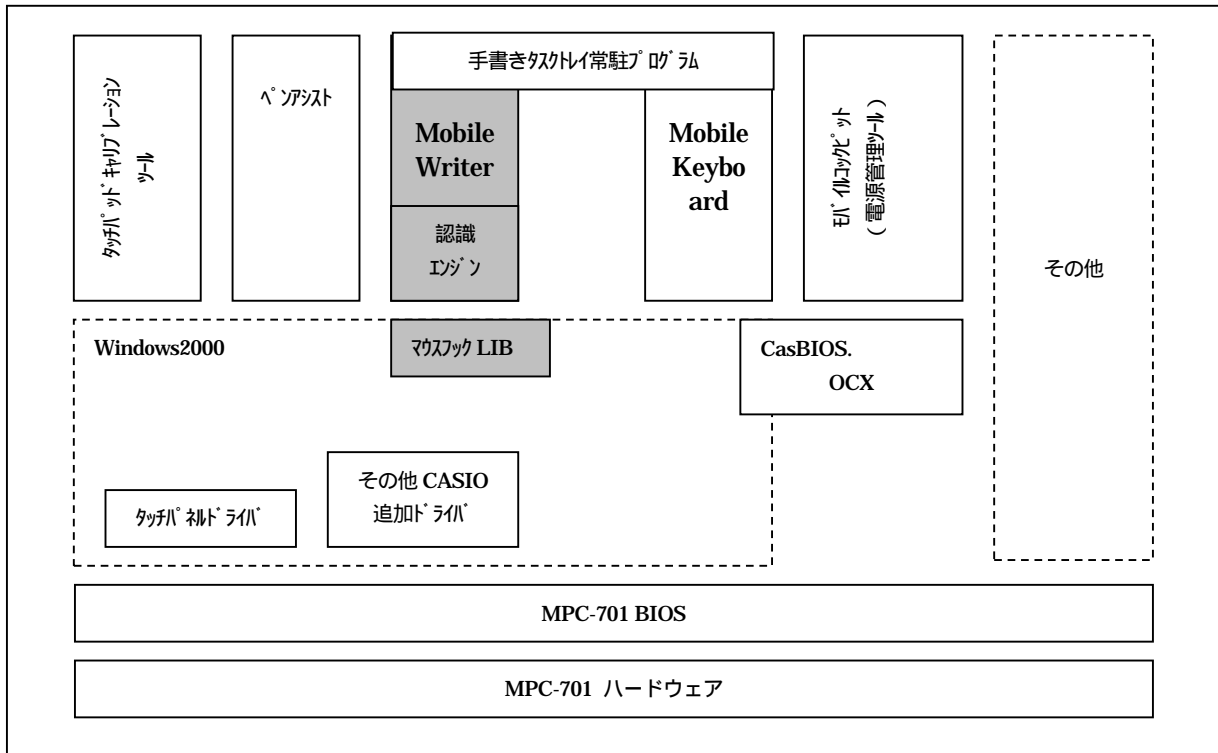
1	はじめに.....	1
2	動作仕様.....	4
3	制約事項.....	4
4	ファイル構成.....	5
4.1	ファイル構成.....	5
4.2	使用レジストリ.....	5
5	インターフェースについて.....	6
5.1	起動オプション.....	6
5.2	メッセージ概要.....	6
5.2.1	起動時.....	6
5.2.2	オペレーティング時.....	6
5.3	メッセージ API 詳細.....	7
6	機能.....	9
6.1	メイン画面.....	9
6.2	各ボタンの意味.....	10
6.3	画面の詳細.....	11
7	操作.....	11
7.1	画面をフルに使用する.....	11
7.2	手書きボックス内に書く.....	12
8	ボタン.....	13
8.1	かな漢字変換ボタン.....	13
8.2	結合・分解ボタン.....	14
8.2.1	結合.....	14
8.2.2	分解.....	14
8.3	筆跡学習ボタン.....	14
8.3.1	登録した筆跡を変える.....	15
8.3.2	認識させる文字の検索と入力.....	15
8.4	BS ボタン.....	19
8.5	リターンボタン.....	19
8.6	文字種切り替えボタン.....	19
8.7	全角半角切り替えボタン.....	19
8.8	句点ダイアログボックスボタン.....	19
8.9	スペースボタン.....	19
8.10	Tab ボタン.....	20
8.11	ペンモード切り替えボタン.....	20
8.12	ペンアシストボタン.....	20
9	サイズ.....	20
10	環境設定.....	21
10.1	バルーンヘルプ ON/OFF.....	22
10.2	ペンの太さと色.....	23

10.3	ユーザー設定認識文字種 .....	23
10.4	認識反応速度の設定 .....	24
10.5	サウンド設定 .....	24
<b>11</b>	<b>筆跡学習辞書編集.....</b>	<b>25</b>
11.1	筆跡の新規登録.....	25
11.2	選択した筆跡の削除 .....	25
11.3	削除した筆跡の復活 .....	25
11.4	登録済みの筆跡の修正.....	25
11.5	登録した筆跡の全削除.....	25
11.6	削除した筆跡の全復活.....	25
<b>12</b>	<b>バージョン情報.....</b>	<b>26</b>
<b>13</b>	<b>ヘルプ.....</b>	<b>26</b>
<b>14</b>	<b>制約.....</b>	<b>27</b>

## 1 はじめに

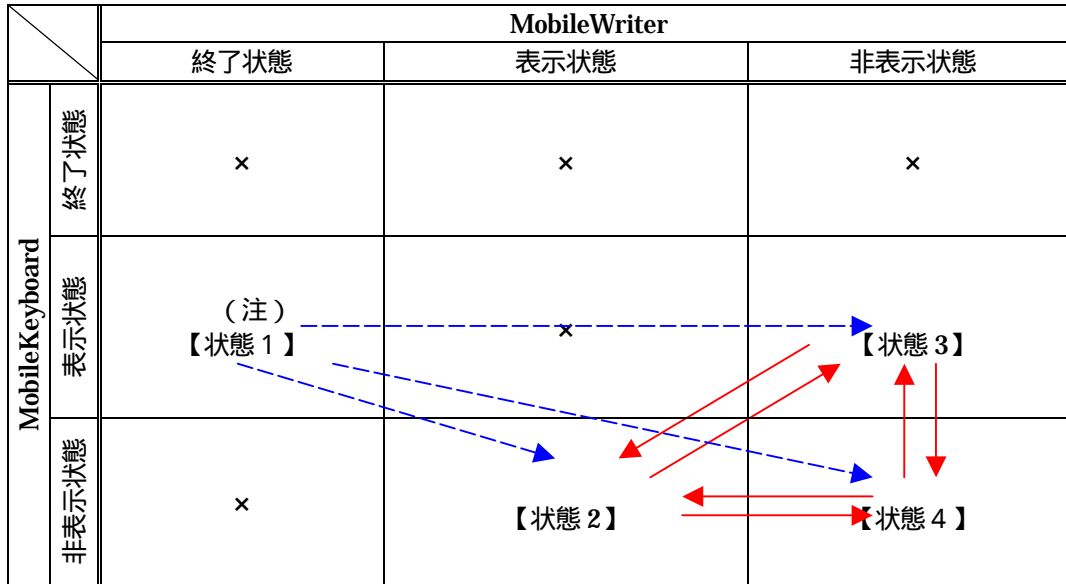
MobileWriter は MPC-701 に搭載されている手書き入力ソフトウェアです。MobileWriter は、アプリケーションが使用できる画面域を最大限拡大する目的で、入力方法としてフリーエリア手書き入力を採用しています。また、認識エンジンもフリーエリア手書き入力に実績のある台湾 PenPower 社を採用し、操作性と高認識率を達成しています。

MobileWriter は、マンマシンを構成する MobileWriter 本体と手書きインクデータを文字コードに変換する認識エンジン、フリーエリア入力を可能とするためのマウスフックライブラリから構成されます。関連するソフトウェア構成を図示します。



ソフトウェア構成

手書きシステムを構成する文字入力ツール(MobileWriter、MobileKeyboard)は、表示状態に関して相互の状態関係が存在します。



(注) この状態は、ユーザーログオンされていない状態で、モバイルキーボードでユーザーアカウント入力時を示す。

終了状態：プログラムが起動されていない状態。

表示状態：文字入力ソフトとして稼働している状態。

非表示状態：プログラムとしては起動されているが、入力ソフトとして稼働していない状態。

---> ログオン実行による状態遷移。(前回ログアウト時の状態に戻る)

—> ユーザー操作または「手書き管理 API」による状態遷移。

- ×: 動作は可能であるが仕様として不可
- : ログイン前の特殊な状態
- : 通常の稼働状態(業務中はいずれかの状態)

【状態1】前章で記述したログインダイアログ表示状態です。電源投入後、(セキュリティ機能は除く)この状態に自動的に移行します。ログイン後は【状態2、3、4】のどれかに移行します。前回のログアウト直後の状態に移行します。

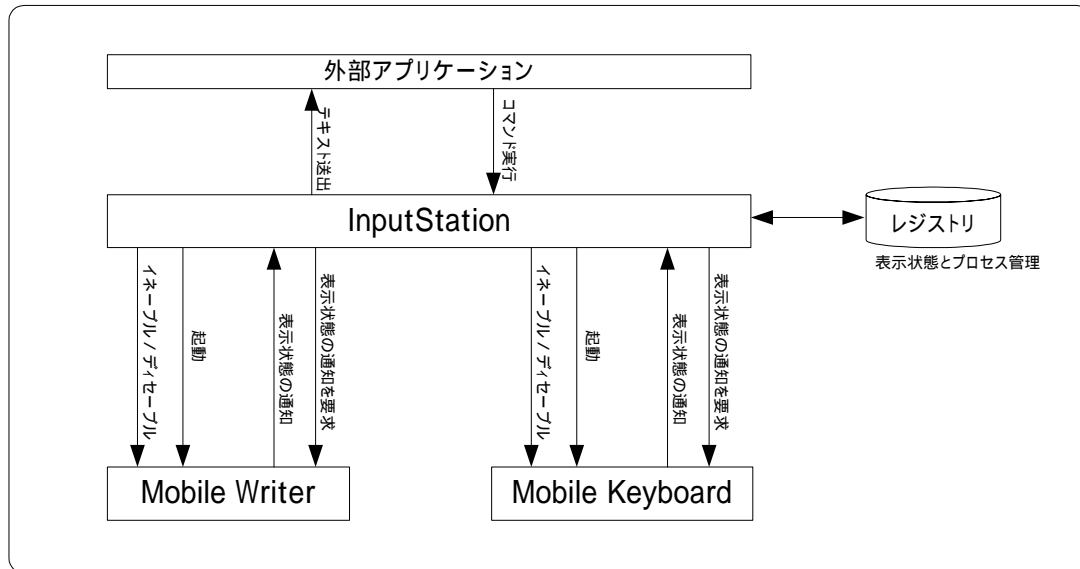
【状態2】MobileWriter のみが表示されている状態です。手書きによる入力を想定しています。

【状態3】MobileKeyboard のみが表示されている状態です。ソフトウェアキーボードによる入力を想定しています。

【状態4】MobileWriter、MobileKeyboard が共に稼働していない状態です。ペンによるポインティング入力(マウス入力)、外部キーボード、実装テンキーによる入力を想定しています。また、アプリケーションに全画面を提供する為に本状態が存在します。

これらの状態管理は、InputStation が行います。

手書きシステム構成ソフトウェアは、上記状態管理の為に互いに状態を通信しています。また、アプリケーションは、構成ソフトウェアに対しての API にメッセージ通信を使用します。以下に手書きシステム構成ソフトウェアの相互通信関係を図示します。



ユーザーがログインすると、InputStationは無条件に MobileWriter と MobileKeyboard を前回ログアウト直前の状態で起動します。以後手書きソフトウェアは、ユーザー操作或いはアプリケーション API の要求に従って、【状態 2 , 3 , 4】を移動します。

## 2 動作仕様

推奨環境	タッチパネル型ペン入力コンピュータ
OS	Windows2000
IME	IME2000
認識文字種	アルファベット、数字、ひらがな、カタカナ、第1水準漢字、第2水準漢字、記号
画面サイズ	大小の2種類
入力エリア	エリア入力、フリー入力
最大学習文字数	256文字
最大編集可能文字数	256文字
ペンの色	黒、赤、青、ユーザー指定(16BIT)
ペンの太さ	5段階
認識開始速度	0.5 ~ 5秒 10段階

## 3 制約事項

MobileWriter が画面に表示されていないにもかかわらず、ペンが動作してしまうことがあります。MobileWriter を一度表示させ、再度非表示にするか、ペンマウス切り替えボタンを操作することで回避できます。

文字認識が終了するまでは文字の入力を避けてください。字飛び、誤認識の原因となります。

ハードディスクにアクセス中は字飛びする場合があります。

起動直後に句点ダイアログを開くと句点ダイアログが正しく表示されないことがあります。

Microsoft Outlook Express において、スケジュール表の予定及びイベント枠に対し直接送信を行うと正常に入力できません。ダブルクリックし、入力ダイアログボックスを表示して文字列送信を行ってください。また、Microsoft Outlook Express と同様の処理をしているアプリケーションにおいても正常に動作しない場合があります。

使用しているうちにペン入力がごちなくなる場合があります。現在原因を追求中ですが、表示非表示を切り替えることにより改善されることがあります。

## 4 ファイル構成

### 4.1 ファイル構成

ファイルのインストール場所

C:\Program Files\Casio\FIVA TOOLS FOR PEN\MobileWriter\

ファイル名	サイズ	内容
ai32jis.rec	任意	AI 学習辞書
ai32jis.bak	任意	AI 学習辞書バックアップファイル
Casio_Jissearch.dll	228KB	部首検索エンジン
Converter.dll	18KB	文字認識コンバーター
learnjis.lrn	任意	筆跡学習辞書
learnjis.bak	任意	筆跡学習辞書バックアップファイル
Mhlib.dll	50KB	マウスフックエンジン
Recogjis.dll	1147KB	文字認識エンジン
MobileWriter.exe	904KB	MobileWriter 本体
Mouse.wav	7KB	ペンマウス自動モード時のモード切り替え音
Type.wav	4KB	ボタン押下音

### 4.2 使用レジストリ

#### [HKEY\_CURRENT\_USER\Software\Casio\MobileWriter\User]

"MobilePosX"=dword:00000000	X位置座標
"MobilePosY"=dword:00000179	Y位置座標
"PenMode"=dword:00000001	ペンモード
"RecogType"=dword:00000000	認識文字種
"ShapeMode"=dword:00000000	文字入力形態(エリア or 全画面)
"Size"=dword:00000000	認識文字幅
"Ballhelp"=dword:00000001	バルーンヘルプ ON/OFF
"Userkan"=dword:00000000	漢字(ユーザー指定)
"Userhra"=dword:00000000	ひらがな(ユーザー指定)
"Userkta"=dword:00000000	カタカナ(ユーザー指定)
"Usereij"=dword:00000000	英字(ユーザー指定)
"Usersuj"=dword:00000001	数字(ユーザー指定)
"Usercod"=dword:00000000	記号(ユーザー指定)
"Pensize"=dword:00000003	ペンサイズ
"Pencolr"=dword:00000002	ペン色
"Pentime"=dword:00000004	認識開始速度
"PensolidColor"=dword:00000000	ペン色(ユーザー指定)
"ClickSound"=dword:00000001	押下音 ON/OFF
"PenSound"=dword:00000001	ペンマウス切り替え音 ON/OFF

#### [HKEY\_CURRENT\_USER\Software\Casio\MobileWriter\Default]

"Ballhelp"=dword:00000001	バルーンヘルプ ON/OFF(デフォルト)
"Userkan"=dword:00000000	漢字(ユーザー指定)(デフォルト)
"Userhra"=dword:00000000	ひらがな(ユーザー指定)(デフォルト)
"Userkta"=dword:00000000	カタカナ(ユーザー指定)(デフォルト)
"Usereij"=dword:00000000	英字(ユーザー指定)(デフォルト)
"Usersuj"=dword:00000001	数字(ユーザー指定)(デフォルト)
"Usercod"=dword:00000000	記号(ユーザー指定)(デフォルト)
"Pensize"=dword:00000003	ペンサイズ(デフォルト)
"Pencolr"=dword:00000002	ペン色(デフォルト)
"Pentime"=dword:00000004	認識開始速度(デフォルト)
"PensolidColor"=dword:00000000	ペン色(ユーザー指定)(デフォルト)



## 5 インターフェースについて

### 5.1 起動オプション

MobileWriter.exe [-disable] [-nosplash]

-disable オプション:

Disable 状態で起動します。メッセージ処理以外の機能はすべて停止します。

-nosplash オプション:

起動時にスプラッシュスクリーンを表示しません。

例)

Disable 状態で、スプラッシュスクリーンを表示しない場合:

MobileWriter.exe -disable -nosplash

### 5.2 メッセージ概要

#### 5.2.1 起動時

- ・ -disable オプション指定なしで起動  
起動時、以下のメッセージを InputStation に対して通知します。  
通知相手:ブロードキャスト  
メッセージ:"CasioWritingControl"  
WPARAM:0x00010000 | 0x00000019  
LPARAM:MobileWriter のハンドル
- ・ -disable オプション指定で起動  
起動時、以下のメッセージを InputStation に対して通知します。  
通知相手:ブロードキャスト  
メッセージ:"CasioWritingControl"  
WPARAM:0x00010000 | 0x00000015  
LPARAM:MobileWriter のハンドル

#### 5.2.2 オペレーティング時

- ・ Disable 状態へ移行  
InputStation により以下のメッセージを受け取った際に Disable 状態へ移行します。  
メッセージ:"CasioMobileWriter"  
WPARAM:0x00000002  
LPARAM:0  
  
また、Disable 状態へ移行が完了した際には以下のメッセージを InputStation へ返答します。  
通知相手:InputStation のハンドル  
メッセージ:"CasioWritingControl"  
WPARAM:0x00000018  
LPARAM:0
- ・ Enable 状態へ移行  
InputStation から以下のメッセージを受け取った際に Enable 状態へ移行します。  
メッセージ:"CasioMobileWriter"  
WPARAM:0x00000001  
LPARAM:0  
  
また、Disable 状態へ移行が完了した際には以下のメッセージを InputStation へ返答します。

通知相手: InputStation のハンドル  
メッセージ: "CasioWritingControl"  
WPARAM: 0x00000014  
LPARAM: 0

・ 終了

InputStation から以下のメッセージを受け取った際にプログラムを終了させます。  
メッセージ: WM\_CLOSE  
WPARAM: 0  
LPARAM: 0

また、終了したことを InputStation に通知します。

通知相手: InputStation のハンドル  
メッセージ: "CasioWritingControl"  
WPARAM: 0x00000012  
LPARAM: 0

### 5.3 メッセージ API 詳細

MobileWriterAPI は、MobileWriter の動作属性をコントロールする API です。アプリケーションが InputStation に対して発行し、InputStation が MobileWriter に転送します。

WM_USER 識別文字列	wParam	lParam	
CasioMobileWriter	Bit 0 ~ 1: 0 表示 / 非表示指定無し (状態維持)		
	Bit 0 ~ 1: 2 表示指定要求 Bit 0 ~ 1: 1 非表示指定要求		
	Bit 2: 0 位置指定無し(状態維持)		
	Bit 2: 1 位置指定要求(IParam)	Y座標: HIWORD X座標: LOWORD	
	Bit 3 ~ 4: 0 サイズ変更 (現状維持)		
	Bit 3 ~ 4: 1 サイズ小 Bit 3 ~ 4: 2 サイズ大		
	Bit 5 ~ 6: 0 フリーエリア / 固定枠入力指定無し (状態維持)		
	Bit 5 ~ 6: 2 フリーエリア入力指定要求 Bit 5 ~ 6: 1 固定枠入力指定要求		
	Bit 7 ~ 8: 0 文字幅指定無し (状態維持)		
	Bit 7 ~ 8: 2 文字幅「半角」指定要求 Bit 7 ~ 8: 1 文字幅「全角」指定要求		
	Bit 9 ~ 10: 0 文字幅ロック指定無し (状態維持)		
	Bit 9 ~ 10: 2 文字幅ロック指定要求 Bit 9 ~ 10: 1 文字幅アンロック指定要求		
	Bit 11 ~ 13: 0 文字種指定無し (状態維持)		
	Bit 11 ~ 13: 4 文字種「全種」指定要求 Bit 11 ~ 13: 2 文字種「英数」指定要求 Bit 11 ~ 13: 6 文字種「かな」指定要求 Bit 11 ~ 13: 1 文字種「カナ」指定要求 Bit 11 ~ 13: 5 文字種「漢字」指定要求 Bit 11 ~ 13: 3 文字種「記号」指定要求 Bit 11 ~ 13: 7 文字種「ユーザー」指定要求		
	Bit 14 ~ 15: 0 文字種ロック指定無し (状態維持)		
	Bit 14 ~ 15: 2 文字種ロック指定要求 Bit 14 ~ 15: 1 文字種アンロック指定要求		
	Bit 16 ~ 17: 0 マウス / ペンモード指定無し (状態維持)		
	Bit 16 ~ 17: 1 マウス固定モード指定要求 Bit 16 ~ 17: 2 ペン固定モード指定要求 Bit 16 ~ 17: 3 マウス / ペン自動モード指定要求 Bit 18: 1 本 API による設定を、変更前に戻す		
	CasioWritingControl	0x0015: MobileWriter 起動 (表示状態) 通知 0x0019: MobileWriter 起動 (非表示状態) 通知 0x0025: モバイルキー起動 (表示状態) 通知 0x0029: モバイルキー起動 (非表示状態) 通知 0x0012: MobileWriter 終了通知 0x0022: モバイルキー終了通知 0x0014: MobileWriter 表示状態通知 0x0018: MobileWriter 非表示状態通知 0x0024: モバイルキー表示状態通知 0x0028: モバイルキー非表示状態通知 0x00010000: InputStation・HWND 要求 0x0100: 要求に対する HWND 通知	HWND 要求時---受信したいウィンドウプロセスの HWND  HWND 通知時---通知 HWND

以下に使用例を示します。

**非表示要求をし、その他は状態を維持する場合:**

```
Wm_CasioMobileWriter = RegisterWindowMessage("CasioMobileWriter");
PostMessage(Demon_hwnd, Wm_CasioMobileWriter, 0x00000001, 0);
```

**(X,Y)座標を(20,20)に表示し、文字種「かな」でロックする場合:**

```
PostMessage(Demon_hwnd, Wm_CasioMobileWriter, 0x00016006, 0x00140014);
```

## 6 機能

### 6.1 メイン画面



図 1 標準の MobileWriter 画面

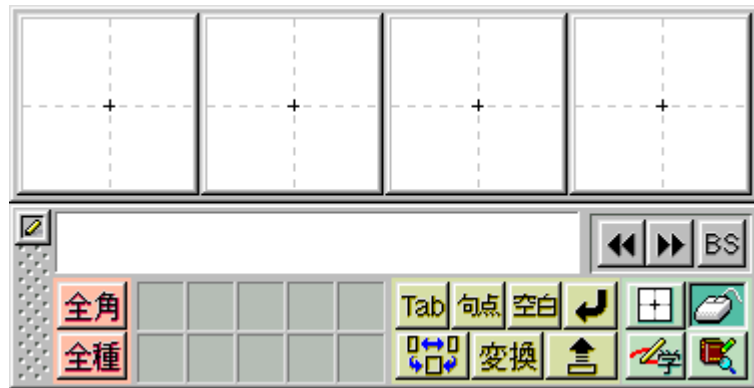


図 2 手書き入力エリア付加時の MobileWriter 画面

## 6.2 各ボタンの意味

MobileWriter	説明
	手書きで認識されたデータがこのエディタ内に入ります。このエディタを「 <b>一行エディタ</b> 」と呼びます。
	一行エディタに入っているデータを起動中のアプリケーションに送ります。このボタンを「 <b>送信</b> 」ボタンと呼びます。
	分解された文字の結合、もしくは結合された文字を分解します。このボタンを「 <b>結合・分解</b> 」ボタンと呼びます。
	ひらがなを漢字に変換します。このボタンを「 <b>かな漢字変換</b> 」ボタンと呼びます。
	自分の筆跡を学習させることができます。このボタンを「 <b>筆跡学習</b> 」ボタンと呼びます。
	手書き入力で認識された文字の候補がここに表示されます。この領域を「 <b>候補文字列</b> 」と呼びます。
	カーソルの前にある文字を 1 文字消去します。また、一行エディタ内に文字がない時にこのボタンをクリックするとアプリケーションの文字が 1 つ消えます。このボタンを「 <b>バックスペース</b> 」ボタンと呼びます。
	一行エディタに入っているデータ + 改行コードを送信します。また、一行エディタ内にデータがない時は改行コードのみを送信します。このボタンを「 <b>リターン</b> 」ボタンと呼びます。
	一行エディタ内にスペース (空白) を入れます。このボタンを「 <b>スペース</b> 」ボタンと呼びます。
	一行エディタ内に Tab を入れます。このボタンを「 <b>Tab</b> 」ボタンと呼びます。
	手書き認識する文字種を切り替えます。このボタンをクリックする毎に全種 英数 かな カナ 漢字 記号 ユーザー 全種...と切り替わります。このボタンを「 <b>文字種切り替え</b> 」ボタンと呼びます。
	認識する文字幅を全角 / 半角に切り替えます。クリックする毎に全角 半角 全角...と切り替わります。このボタンを「 <b>全角半角切り替え</b> 」ボタンと呼びます。
	このボタンをクリックすると、句点のリストが表示されます。ユーザーはこのリストから選択することにより句点を入力します。このボタンを「 <b>句点ダイアログボックス</b> 」ボタンと呼びます。
	このボタンをクリックするとペンの動作がマウス / 手書き マウス 手書き...と切り替わります。このボタンを「 <b>ペンモード切り替え</b> 」ボタンと呼びます。
	このボタンをクリックするとペンアシストを起動することができます。このボタンを「 <b>ペンアシスト</b> 」ボタンと呼びます。
	このボタンをクリックすると手書きボックスが表示 / 非表示になります。このボタンを「 <b>手書きボックス</b> 」ボタンと呼びます。
	このボタンをクリックすると一行エディタ内のカーソルを移動させることができます。このボタンを「 <b>左スクロール</b> 」「 <b>右スクロール</b> 」ボタンと呼びます。

### 6.3 画面の詳細

全角スペースと半角スペースの区別をつけるのは非常に難しいので、半角スペースが一行エディタに入っている時は細長い を、全角スペースが入っている時は桁形を表示します。また、この2つは灰色で表示されます。

カーソルは点滅している縦線です (WORDPAD.EXE と同じです)。

「左右スクロール表示」は、文字が一行エディタに表示しきれなかった時に表示されます。これが一行エディタの右 (左) 側に点灯している時は、

右 (左) 側に入りきれなかった文字があることを示しているの、右 (左) スクロールボタンをクリックすると表示しきれなかった文字を見ることが

ができます。一行エディタに全ての文字が表示されているときは左右スクロール表示は点灯しません。



図 3 画面詳細

## 7 操作

### 7.1 画面をフルに使用する

ユーザーは画面をフルに使って手書き入力することができます(図4)。手書きデータは MobileWriter に送られ、アスキーデータ(図4では“CASIO”)として認識されます。認識されたデータは「一行エディタ」に表示されます。この時、「候補文字列」には手書きで最後に書かれた文字 (“O”) の文字候補 (例えば“0”(ゼロ)など) が表示されます。ユーザーが一行エディタの中の文字をアプリケーションに送る時は、「文字列の送信」ボタンを押せばアプリケーションに文字が入ります。この時、送信したいアプリケーションがアクティブになっている必要があります。

しかし、画面をフルに使っていると、MobileWriter はユーザーが書いた文字が1文字なのかそれとも複数なのかわからず、認識ミスを起こすことがあります。MobileWriter にはそういった認識ミスが発生した時のために「結合・分解」ボタンがあります。

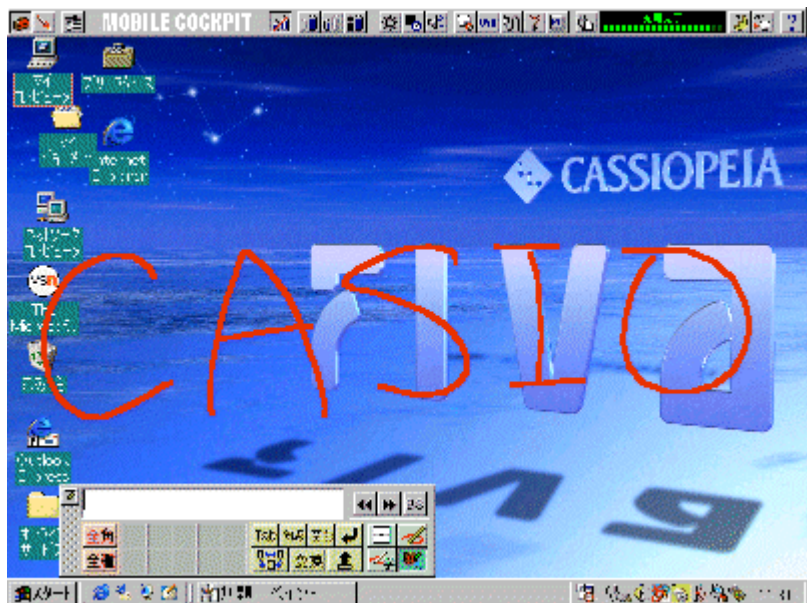


図 4 画面全体を使った手書き入力

## 7.2 手書きボックス内に書く

ユーザーが「手書きボックス切り替え」ボタンをクリックすると、図5のように手書きボックスが4つ表示されます。ユーザーは各ボックス内に1文字ずつ文字を書きます。これによってMobileWriterは確実に1文字の認識を行うことができます。

手書きデータが認識エンジンに送られる時間は認識反応速度に依存します。

ユーザーは1つのボックスに1つの文字を書くことができます。書いた文字がボックスからはみ出ている場合、正しく認識されません(図6)。

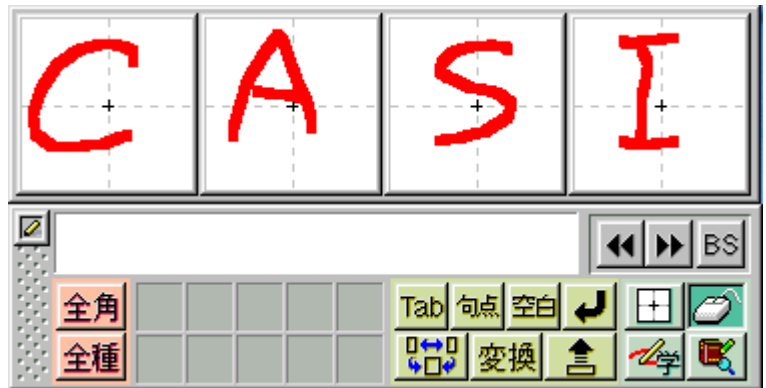


図5 手書きボックスを使用した手書き入力

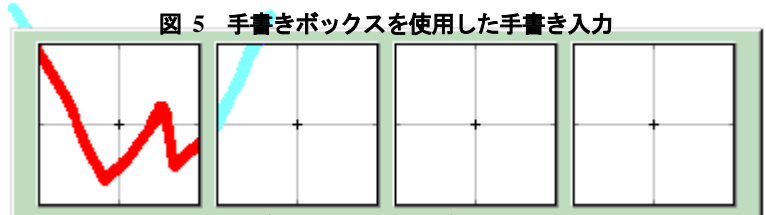


図6 ボックスから文字がはみ出た場合

## 8 ボタン

### 8.1 かな漢字変換ボタン

ひらがなで“みたか”と書いて、「かな漢字変換」ボタンをクリックします(図7)。すると、変換ウィンドウが表示されます(図8)。ここで変換させたい部分を選択して「変換」ボタンをクリックすると変換候補が表示されますので(図10)、使用したい候補をクリックした後、「確定」ボタンをクリックすると一行エディタに文字列が入ります(図9)。変換したくない場合は「キャンセル」ボタンをクリックしてください。



図7 かな漢字変換

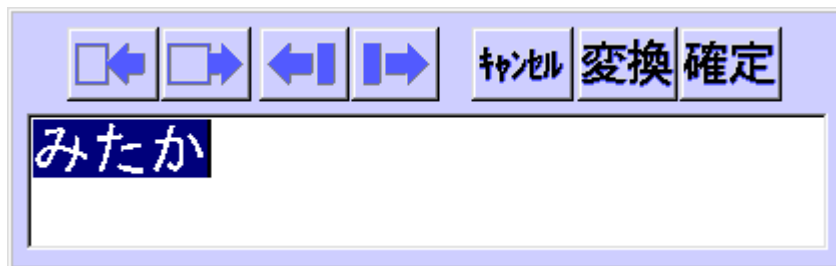


図8 変換ウィンドウ



図10 変換された単語

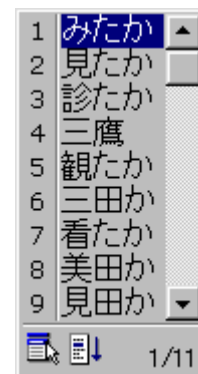


図9 変換候補



## 8.2 結合・分解ボタン

### 8.2.1 結合

画面全体を使用して文字を書いた場合、本来 1 つの文字であるのに複数の文字として認識されることがあります。例えば「森」という漢字を書いた場合、「木木木」と分解されて認識されてしまうことがあります。ここでこの「木木木」を選択したのちに「結合・分解」ボタンをクリックすると、MobileWriter は再認識して「森」と表示します。

### 8.2.2 分解

結合とは逆に複数の文字を書いたのに 1 文字と認識された場合、例えば「イニ」と書いたのに「仁」と認識された場合、結合・分解ボタンをクリックすると MobileWriter が再認識して「仁」と表示されます。

## 8.3 筆跡学習ボタン

もし「大」という文字を書いて、正常に認識されなかった場合、「筆跡学習」ボタンをクリックすると新しいウィンドウ(図 11)が表示されます。このウィンドウの左上には自分が先ほど書いた筆跡が表示されます。次に自分が書いた筆跡がどの文字に対応するかを決定します。この文字は下図のように手書き、キーボード、部首検索、画数検索、記号、コードから入力します。

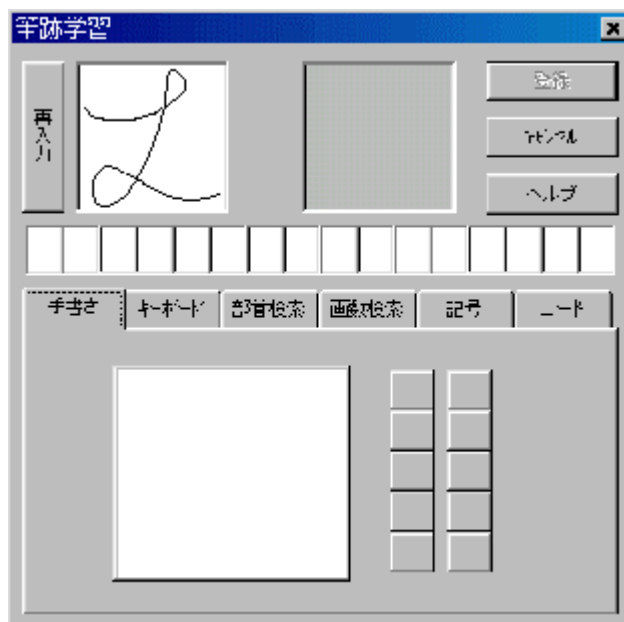


図 11 筆跡学習ウィンドウ

### 8.3.1 登録した筆跡を変える

登録された筆跡データが気に入らない場合は、再度書きなおすことができます。

#### [登録した筆跡を変える方法の例]

「再入力」ボタンをクリックすると、ウィンドウが図 12 のようになり、「手書きデータ再入力」エリアに新しいデータを書くことができます。書き直したデータが気に入らなかった場合は「書き直し」をクリックすれば書き直すことができます。自分が書き直したデータが気に入れば「OK」ボタンをクリックしてください。「OK」をクリックすると新しい筆跡データが表示されます。

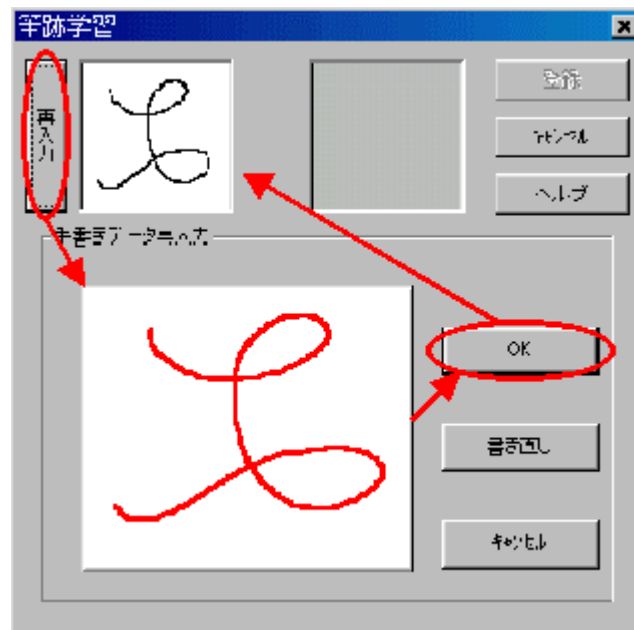


図 12 筆跡データの再入力

### 8.3.2 認識させる文字の検索と入力

#### 8.3.2.1 手書き

手書き入力で認識させる文字を入力することができます。

#### [入力方法の例]

図 11 で「手書き」タブを選択すると、ウィンドウは図 13 のようになります。この認識データに登録したい文字を手書きで入力します。「選択ボックス」に登録したい文字が表示されたらその中から選択します。選択された文字は「選択ボックス」と「スクエアボックス」に表示され、さらに選択ボックスの上にはアスキーコードが表示されます。その文字でよければ「登録」をクリックすると文字が登録されます。選択ボックスがいっぱいになると、文字は左にスクロールしていき、左側の文字が順に消えていきます。

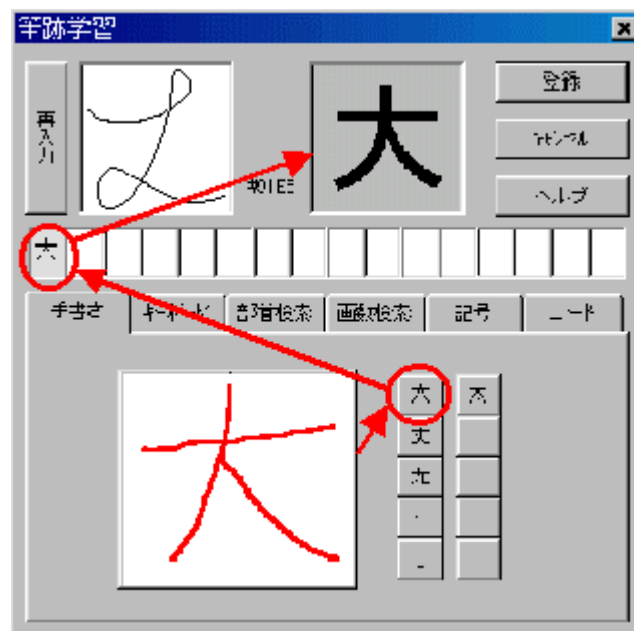


図 13 手書きによる入力

### 8.3.2.2 ソフトウェアキーボード

ソフトウェアキーボードから認識させる文字を入力することができます。

#### [入力方法の例]

図 11 で「キーボード」タブを選択すると、ウィンドウは図 14 のようになります。キーボードから複数の文字を入力すると選択ボックスに全て表示されますが、登録されるのは最後の 1 文字です。この時アスキーコードが表示されます。

ソフトウェアキーボードは普通のキーボードのように使用できます。例えば、「SHIFT」キーを押せば、大文字のアルファベットを入力できます。

選択ボックスがいっぱいになると、文字は左にスクロールしていき、左側の文字が順に消えていきます。

登録したい文字が正常に「スクエアボックス」に表示されたら、「登録」ボタンをクリックすれば、MobileWriter は筆跡データと文字の関係を記憶します。



図 14 ソフトウェアキーボードによる入力

### 8.3.2.3 部首検索

漢字の部首から認識させる文字を入力することができます。

#### [入力方法の例]

図 12 で「部首検索」タブを選択すると、ウィンドウは図 16 のようになります。ここで「部首画数」を選択すると、部首エリアが変化します。自分が認識させたい文字の部首があれば、その部首をクリックすると、「文字エリア」内の文字が変わります。

認識させたい文字が「文字エリア」内にあれば、その文字を選択します。選択された文字は「選択ボックス」、「スクエアボックス」に表示され、アスキーコードが自動的に表示されます。選択ボックスがいっぱいになると、文字は左にスクロールしていき、左側の文字が順に消えていきます。

最後に、認識させたい文字が「スクエアボックス」に表示されている時に「登録」ボタンをクリックすると、MobileWriter は筆跡データと文字の関係を記憶します。

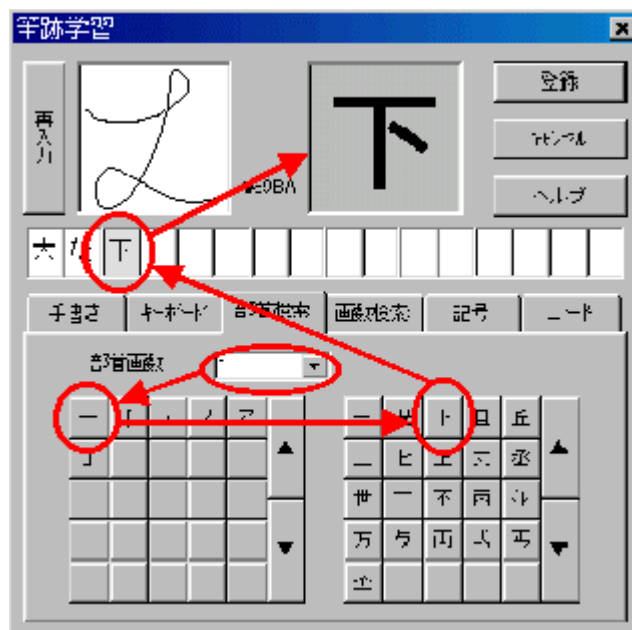


図 15 部首検索による入力

## 8.3.2.4 画数検索

文字の画数から認識させる文字を入力することができます。

## [入力方法の例]

図 11 で「画数検索」タブを選択すると、ウィンドウは図 16 のようになります。ここで「総画数」を選択すると、「文字エリア」が変化します。この文字エリアには同一画数の全ての文字が入ります。

「文字エリア」内に認識させたい文字があれば、その文字をクリックすることで選択します。選択された文字は「選択ボックス」、「スクエアボックス」に入り、同時にアスキーコードが表示されます。

選択ボックスがいっぱいになると、文字は左にスクロールしていき、左側の文字が順に消えていきます。

最後に、認識させたい文字が「スクエアボックス」に表示されている時に「登録」ボタンをクリックすると、MobileWriter は筆跡データと文字の関係を記憶します。

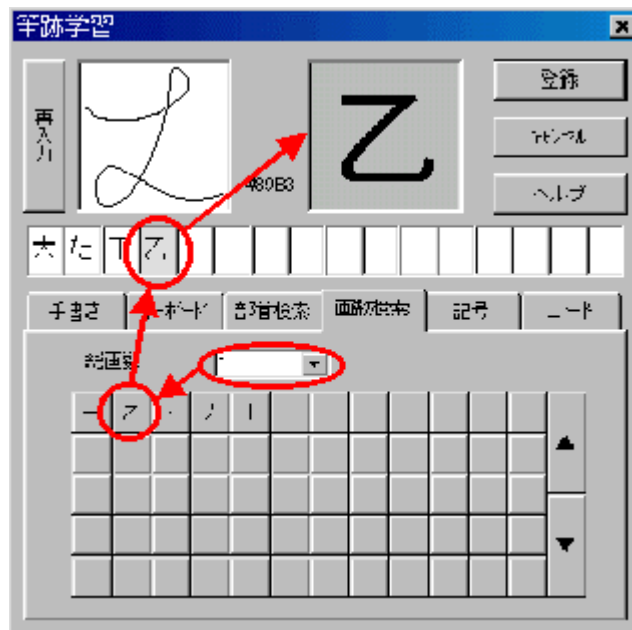


図 16 画数検索による入力

## 8.3.2.5 記号

記号リストから認識させる文字を入力することができます。

## [入力方法の例]

図 11 で「記号」タブを選択すると、ウィンドウは図 17 のようになります。このウィンドウには「記号種」があり、記号種として「記述記号」、「括弧記号」、「学術記号」、「単位記号」、「一般記号」、「ラテン文字」、「ひらがな」、「カタカナ」、「ギリシア文字」、「キリール文字」、「罫線文字」があります。このうちの1つを「記号種」として選択すると、「記号エリア」が変化します。認識させたい記号（文字）が「記号エリア」にあればそれを選択します。選択された記号（文字）は「選択ボックス」、「スクエアボックス」に表示され、同時にアスキーコードも表示されます。

選択ボックスがいっぱいになると、文字は左にスクロールしていき、左側の文字が順に消えていきます。

最後に、認識させたい文字が「スクエアボックス」に表示されている時に「登録」ボタンをクリックすると、MobileWriter は筆跡データと文字の関係を記憶します。

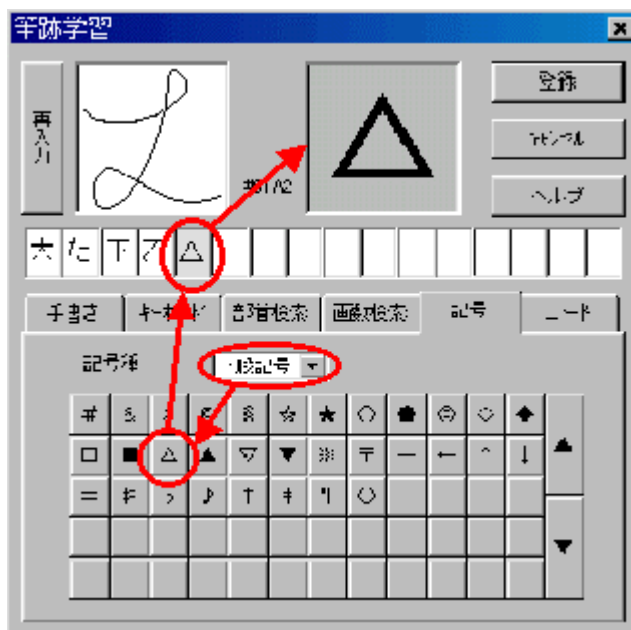


図 17 記号リストによる入力

### 8.3.2.6 コード

アスキーコードから認識させる文字を入力することができます。

#### [入力方法の例]

図 11 で「コード」タブを選択すると、ウィンドウは図 18 のようになります。ウィンドウには「コード番号」エリアがあり、その下に表示されている専用ソフトウェアキーボードでアスキーコードを入力します。例えば「91E6」と入力した場合、このコードに対応する文字(「第」)が「選択ボックス」「スクエアボックス」に表示され、同時にアスキーコードも表示されます。登録されていないアスキーコードを入力してしまっても何も表示されません。その時は4桁の数字を入力後再度入力を始めれば大丈夫です。

選択ボックスがいっぱいになると、文字は左にスクロールしていき、左側の文字が順に消えていきます。最後に、認識させたい文字が「スクエアボックス」に表示されている時に「登録」ボタンをクリックすると、MobileWriterは筆跡データと文字の関係を記憶します。



図 18 ASCII コードによる入力

## 8.4 BS ボタン

「BS」ボタンには4つの機能があります。

- 一行エディタ内に1つまたはそれ以上の文字が入っていれば、「BS」ボタンをクリックするとカーソルの前の文字が1つ消去されます。
- 一行エディタ内に文字が入っていないときは、「BS」ボタンをクリックするとその時アクティブになっているウインドウのカーソルの前にある文字が1つ消去されます。
- 一行エディタ内の複数の文字が選択されているときに「BS」ボタンをクリックすると、選択された文字が全て消去されます。(DEL キーと同じ働きです)
- 一行エディタ内に文字が入っていない状態で、アクティブウインドウ内の複数の文字が選択されているときに「BS」ボタンをクリックすると、ウインドウ内の選択された文字が全て消去されます。(DEL キーと同じ働きです)

## 8.5 リターンボタン

[リターン]ボタンには2つの機能があります。

- 一行エディタ内に1つまたはそれ以上の文字が入っていれば、「リターン」ボタンをクリックすると、その時アクティブになっているウインドウに文字列が送られ、かつ改行されます。
- 一行エディタ内に文字が入っていないときは、「リターン」ボタンをクリックするとその時アクティブになっているウインドウが改行されず。

## 8.6 文字種切り替えボタン

このボタンをクリックすると次の7つに切り替わります。:「全種」、「英数」、「かな」、「カナ」、「漢字」、「記号」、「ユーザー」  
これらはボタンを1回クリックするごとに切り替わっていき、「ユーザー」の時にクリックすると最初の「全種」に戻ります。

(注)文字種が「かな」、「漢字」のときに文字幅を「半角」に切り替えると文字種が自動的に「かな」及び「記号」に切り替わります。

[全種]	手書きデータを全ての文字種から認識します。半角/全角モード時使用可能
[英数]	手書きデータを英数文字として認識します。半角/全角モード時使用可能
[かな]	手書きデータをひらかなとして認識します。全角モード時のみ使用可能
[カナ]	手書きデータをカタカナとして認識します。半角/全角モード時使用可能
[漢字]	手書きデータを漢字として認識します。全角モード時のみ使用可能
[記号]	手書きデータを記号として認識します。半角/全角モード時使用可能
[ユーザー]	手書きデータをユーザーが設定した文字種として認識します。半角/全角モード時使用可能。ただし、半角モード時は、「かな」及び「漢字」の設定はそれぞれ、「カナ」及び「記号」として解釈されます。

## 8.7 全角半角切り替えボタン

このボタンをクリックすると次の2つに交互に切り替わります。:「全角」、「半角」

「全角」になっているときは、全ての入力データ(スペース、手書きデータ、句点)は全角文字として認識され、「半角」になっているときは半角文字として認識されます。

## 8.8 句点ダイアログボックスボタン

このボタンをクリックすると句点ダイアログが開きます。このダイアログにはボタンが8つあり、全角半角切り替えボタンの状態によって句点の幅と種類が切り替わります。

「全角」になっているときに表示されるのは「。」「、」「、」「、」「、」「、」「、」「、」「、」です。「半角」になっているときに表示されるのは「.」「,」「,」「,」「,」「,」「,」「,」「,」です。自分が入力したいボタンをクリックすると一行エディタにその句点が入力されます。

## 8.9 スペースボタン

このボタンをクリックすると一行エディタにスペースが入力されます。全角半角切り替えボタンが「全角」になっているときは全角スペースが、「半角」になっているときは半角スペースがそれぞれ入力されます。

## 8.10 Tab ボタン

このボタンをクリックすると一行エディタに Tab が入力されます。Tab には全角 / 半角の区別はありません。

## 8.11 ペンモード切り替えボタン

このボタンをクリックすると次の 3 つに切り替わります。:「手書き&マウス」、「手書き」、「マウス」

手書き&マウスモード	MobileWriter が自動的に手書き入力とマウスの切り替えをします。画面にペンが触れてすぐに動かさなければマウスとして動作し、素早く動かせば手書き入力として動作します。また、ペンを一定時間 (約 0.5 秒) 動作させないと、サウンドと共にマウスモードに移行します。
手書きモード	このモードではペン動作は全て手書き入力として扱われます。このモードではマウスとしての動作はできません。このモードでは PenAssist の起動は行えません。
マウスモード	このモードではペン動作は全てマウスとして扱われます。このモードでは手書きとしての動作はできません。

## 8.12 ペンアシストボタン

このボタンをクリックすると、「ペンアシスト」を起動させることができます。ただしペンモード切り替えボタンが「手書きモード」のときはこのボタンが押せなくなります。ペンアシストの詳細につきましては別紙「PenAssist2 機能仕様書」を参照してください。

## 9 サイズ

MobileWriter のサイズを変える (二段階) ことができます。サイズ変更するには MobileWriter メニュー (図 19) のサイズをタッチし、「小さいサイズ」、「大きいサイズ」から選択します。なお、デフォルトでは「小さいサイズ」になっています。

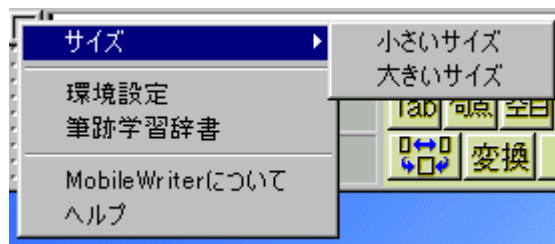


図 19 サイズ設定



図 20 小さいサイズ



図 21 大きいサイズ

## 10 環境設定

MobileWriter の設定は、MobileWriter メニュー(図 22)の「環境設定」で変更することができます。「環境設定」を選択すると、新しいウィンドウ(図 23)が開きます。このウィンドウで MobileWriter の環境設定を変更することができます。



図 22 MobileWriter メニュー



図 23 環境設定ウィンドウ



## 10.1 バルーンヘルプ ON/OFF

この設定を「ON」にすると、マウスポインタが各ボタン上にあると自動的に小さいヘルプウィンドウ(図 25)が開くようになります。

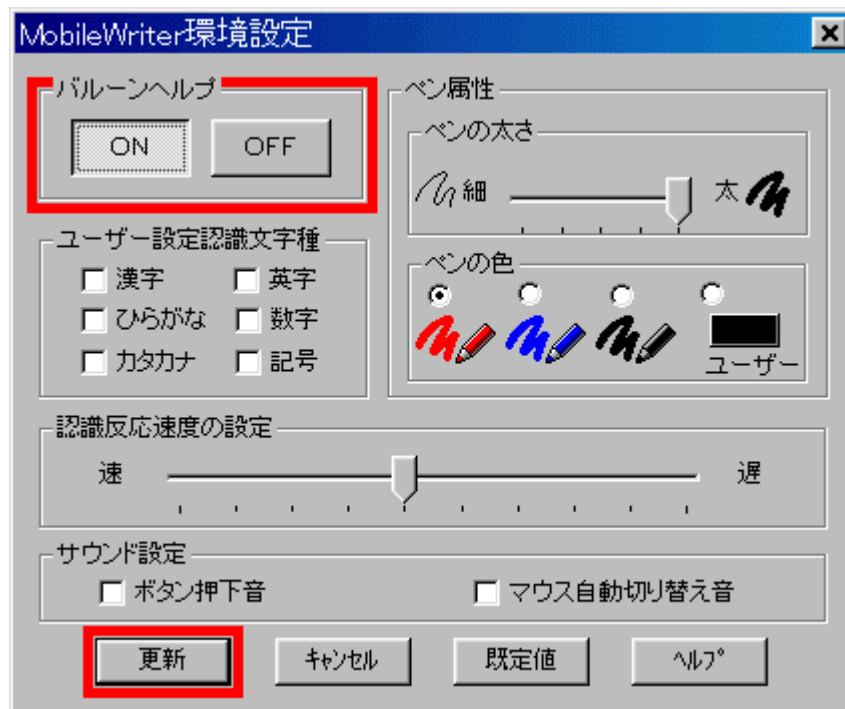


図 24 バルーンヘルプ設定



図 25 バルーンヘルプ

## 10.2 ペンの太さと色

図 26 にあるスライドバーを右に動かすと手書きの線が太くなり、左に動かすと細くなります。

黒、赤、青、の 3 色のうちどれか、もしくはユーザー設定で好きな色に手書きの線の色を変えることができます。色を変えるには図 26 の変えたい色をクリックしてください。

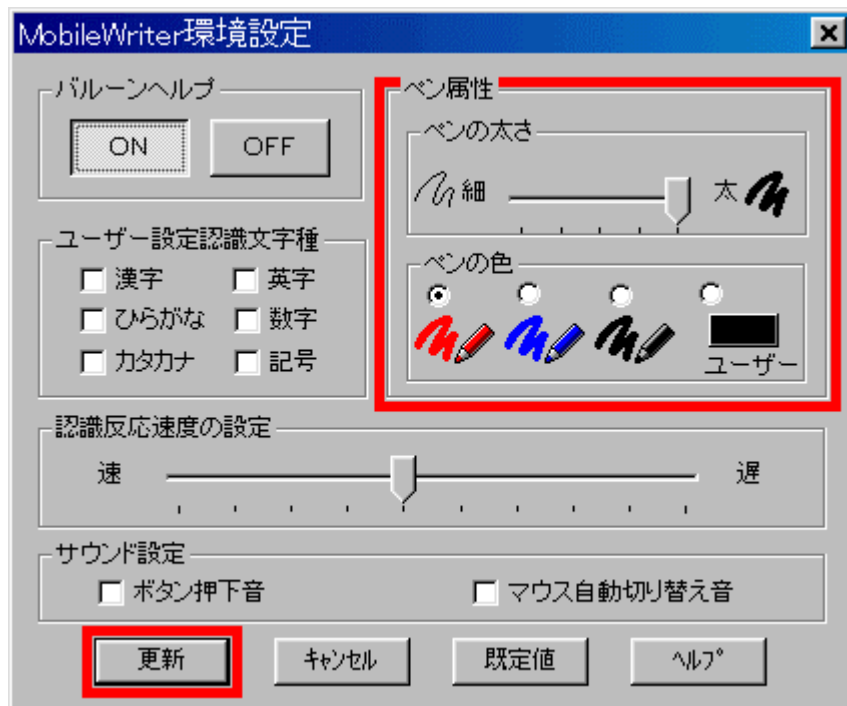


図 26 ペンの太さと色を設定

## 10.3 ユーザー設定認識文字種

文字種切り替えボタンの「ユーザー」で、どんな文字を認識させるかを設定します(図 27)。例えば、「ひらがな」、「カタカナ」、「英字」、「数字」にチェックがついていれば、文字種切り替えが「ユーザー」のときは手書きを上記 4 種類の文字として認識します。

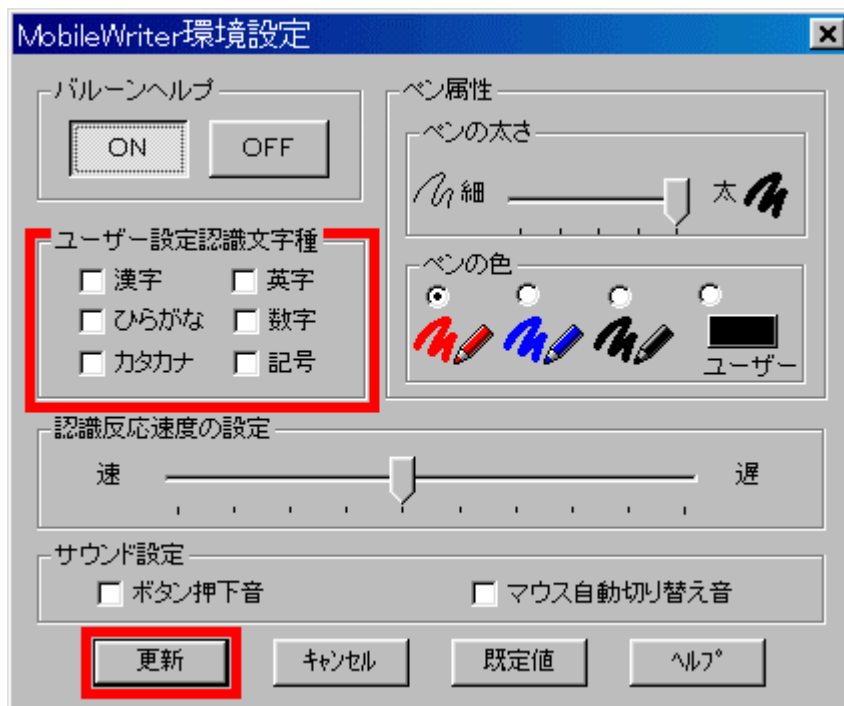


図 27 ユーザー設定認識文字種の設定

## 10.4 認識反応速度の設定

認識反応速度とは、手書きを行ってから文字を認識し始めるまでの速度です。このスライダーを右に動かすと認識反応速度が遅くなり、左に動かすと速くなります(図 28)

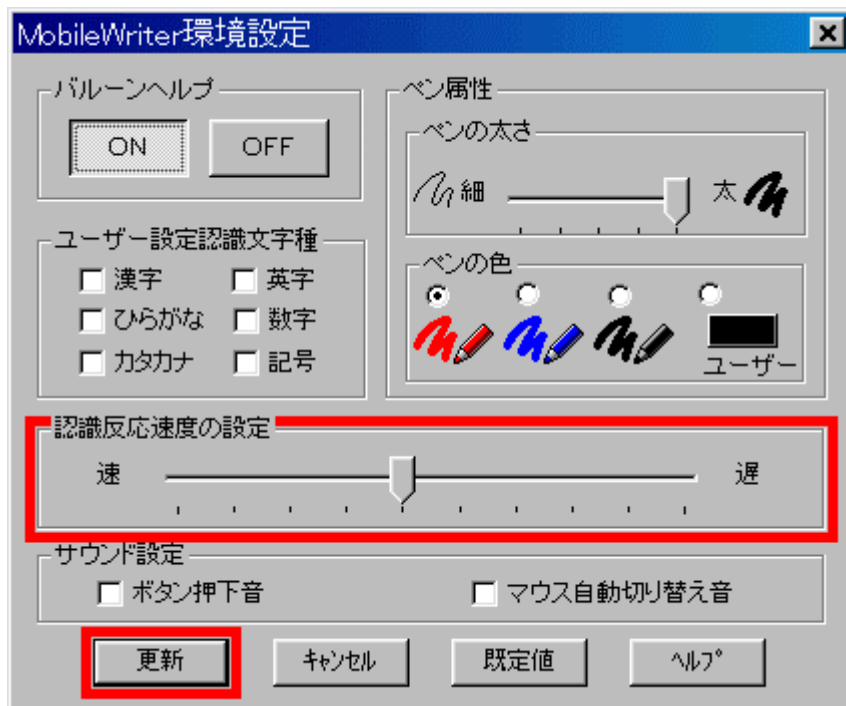


図 28 認識反応速度の設定

## 10.5 サウンド設定

MobileWriter 上のボタンをタッチしたときに音が鳴るようにするには、「ボタン押下音」チェックボックスに印をつけます。ペンモードが「手書き&マウスモード」になっているときに、手書きからマウスに切り替わったときに音が鳴るようにするには、「マウス自動切り替え音」チェックボックスに印をつけます。

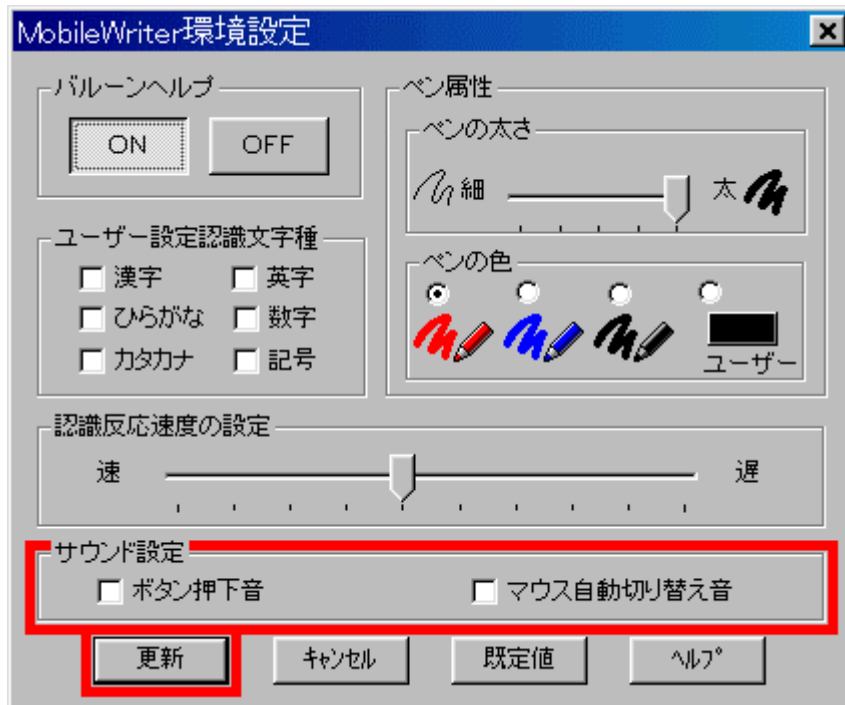


図 29 サウンド設定

## 11 筆跡学習辞書編集

### 11.1 筆跡の新規登録

「新規」ボタンは「筆跡学習」ボタンと同じ働きをします。しかし先に手書き入力を行うのではなく、図 30 の画面が表示されてから入力すること、また「筆跡学習」ボタンで登録を完了した後は通常の MobileWriter 画面に戻りますが、「新規」ボタンをクリックして登録した場合は「筆跡学習辞書編集」ウィンドウが開いた状態に戻ることに異なります。

### 11.2 選択した筆跡の削除

削除したい筆跡を選択(筆跡に対応させている文字のボタンをクリック)した後「削除」ボタンをクリックするとその筆跡が削除されます。最後に「筆跡学習辞書編集」ウィンドウの「OK」ボタンをクリックすると登録から削除されます。「キャンセル」をクリックすると登録か

らは削除されず、次回「筆跡学習辞書編集」ウィンドウを開いたときに再び表示されます。

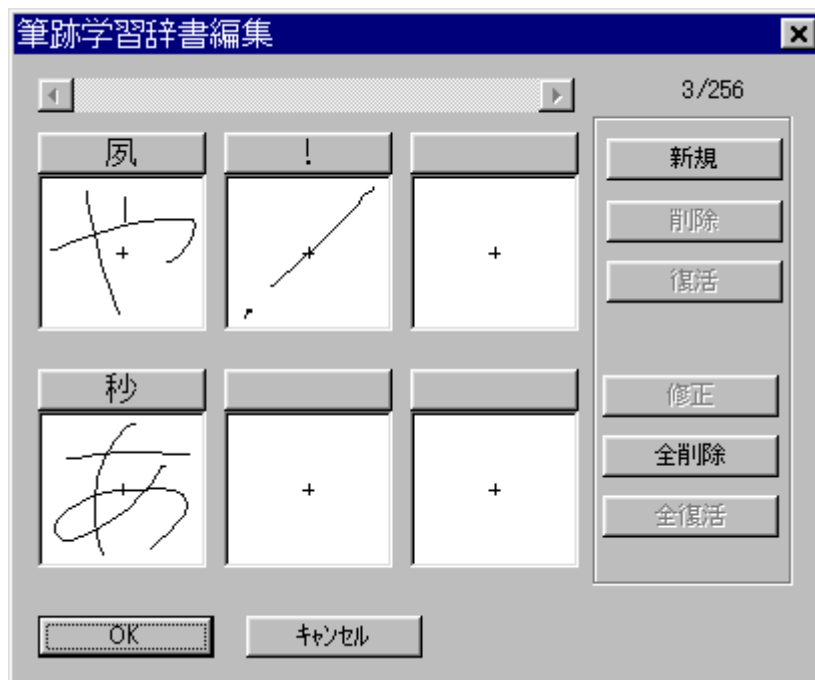


図 30 筆跡学習辞書編集

### 11.3 削除した筆跡の復活

削除した筆跡を「復活」ボタンをクリックすることで復活させることができます。ただし削除してから「筆跡学習辞書編集」ウィンドウの「OK」ボタンをクリックすると復活はできません。復活が可能な時は「復活」ボタンの文字が黒く表示されますが、復活できない時は半透明で表示されています。

### 11.4 登録済みの筆跡の修正

登録済みの筆跡を修正することができます。修正したい筆跡を選択した後「修正」ボタンをクリックすると筆跡学習ウィンドウが開きます。このウィンドウには登録された筆跡が表示されていますので、このデータを修正することで筆跡の修正を行うことができます。

### 11.5 登録した筆跡の全削除

登録済みの筆跡を全削除することができます。「全削除」ボタンをクリックすると、図 31 のようなダイアログが表示されますので、ここで「はい」をクリックすると筆跡が全て削除されます。

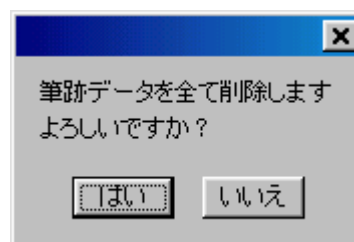


図 31 全削除確認ダイアログ

### 11.6 削除した筆跡の全復活

削除した筆跡を全て復活させることができます。個別に削除した筆跡や全削除した筆跡は「全復活」ボタンをクリックすると元に戻ります。ただし削除してから「筆跡学習辞書ダイアログ」を閉じてしまうと次に開いた時には復活はできませんのでご注意ください。

## 12 バージョン情報

図 22「MobileWriter メニュー」の「MobileWriter について」をクリックすると、バージョン情報(図 32)が表示されます。



図 32 バージョン情報

## 13 ヘルプ

図 22「MobileWriter メニュー」の「ヘルプ」をクリックすると、手書きシステムヘルプ(図 33)が表示されます。

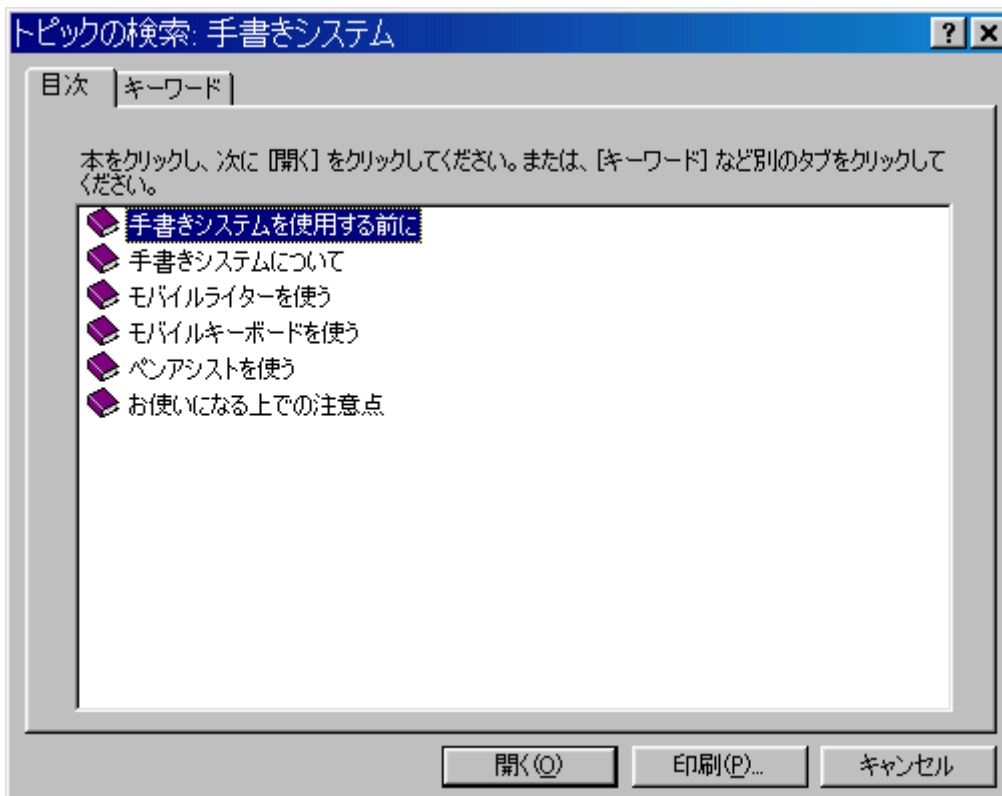


図 33 ヘルプ画面

## 14 制約

- ・ペン入力した文字列を送信している間は、テンキー等からのキー入力を避けてください。文字が化ける可能性があります。
- ・Windows のスクリーンキーボードと同時に使用しないでください。MobileWriter の機能が使えなくなります。

最終ページ